

最近の経済動向

令和3年9月号

(北海道の景気動向～令和3年7月の経済指標を中心として)

一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している

■生産動向

P1 生産活動(鉱工業生産指数)
持ち直しの動きが続いている

■需要動向(消費・投資)

P2 個人消費(百貨店・スーパー・コンビニエンスストア・専門量販店販売額、
インターネットを利用した一世帯支出額、新車登録台数)
一部が低い水準にとどまるものの、持ち直しの動きが続いている

P6 住宅建設(新設住宅着工戸数)
持ち直しの動きに弱さがみられる

P7 公共工事(公共工事請負金額)
おおむね横ばいとなっている

P8 観光(来道者数、来道外国人数)
弱い動きが続いている

P10 輸出入(輸出額、輸入額)
輸出額、輸入額とも前年を上回った

■企業倒産

P11 企業倒産(倒産件数、負債総額)
倒産件数は減少し、負債総額は増加した

■雇用動向

P13 求人・求職(月間有効求人数・求職者数、月間有効求人倍率、完全失業率)
弱い動きが続いている

■物価動向

P15 物価(消費者物価指数)
消費者物価指数は前年を上回った

■企業の業況感

P16 企業経営者意識調査
前期から上昇している

P17 企業のみなさまから伺いました

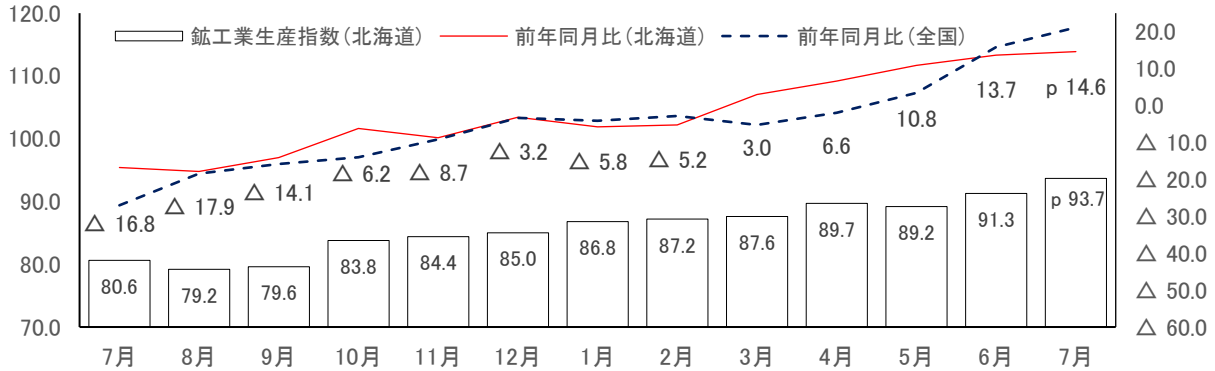
生産活動～持ち直しの動きが続いている

鉱工業生産指数（7月）

鉱工業生産指数(季節調整済)は、93.7 で前月比 2.6%(2 か月連続で上昇)であり、原指数による前年同月比は、14.6%(5 か月連続で上昇)となった。業種別にみると、鉄鋼業など 9 業種が前月比上昇、金属製品工業など 6 業種が前月比低下となった。

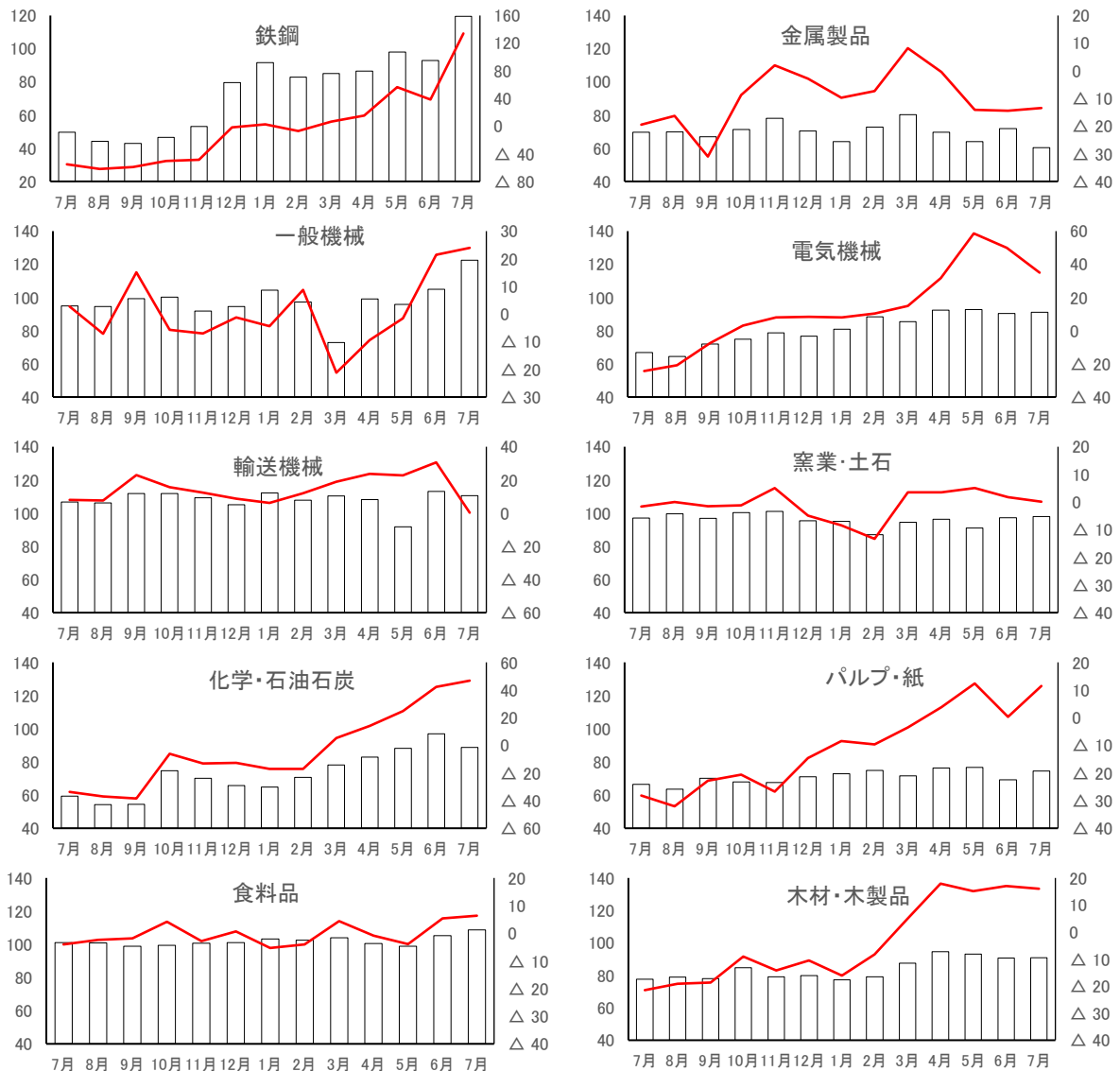
(季節調整済指数:平成 27 年=100)

(原指数前年同月比:%)



*「p」は速報値

■主な業種の季節調整済指数(右軸:原指数前年同月比%)

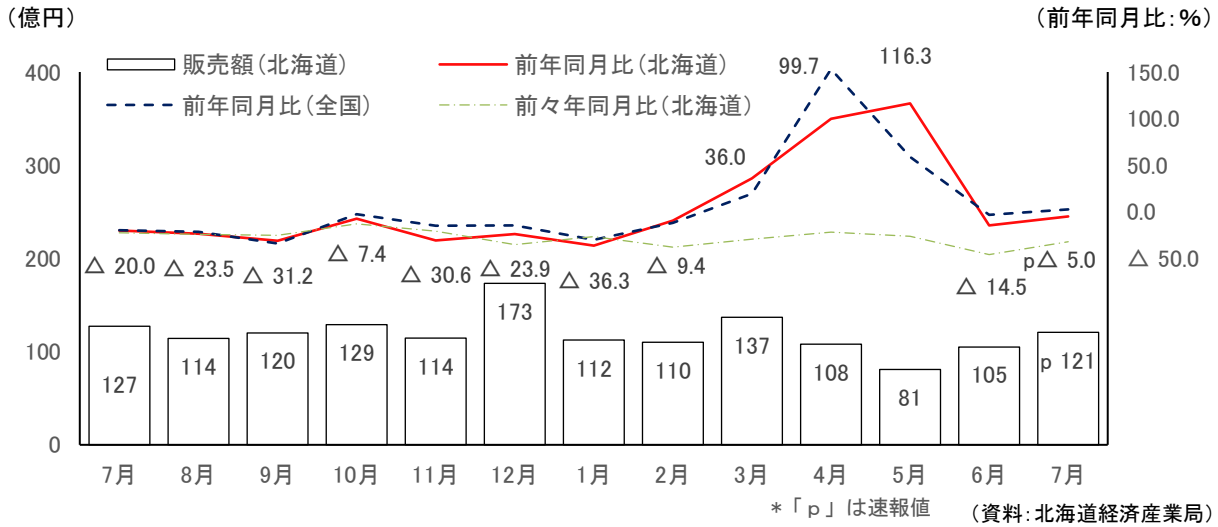


(資料:北海道経済産業局)

■個人消費～一部が低い水準にとどまるものの、持ち直しの動きが続いている

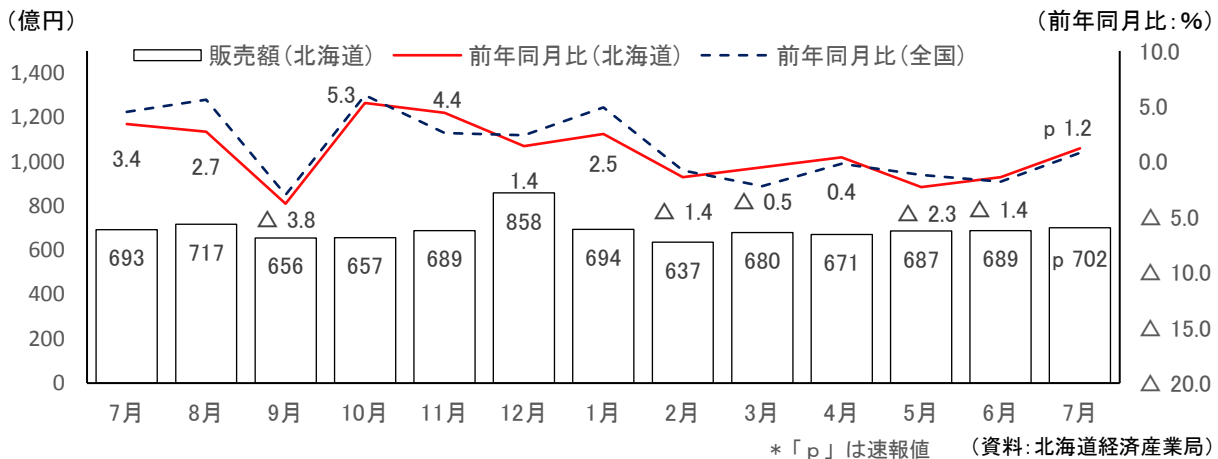
百貨店販売額（7月）

百貨店販売額は、121 億円で前年同月比 5.0%の減少となり、2 か月連続で前年を下回った。



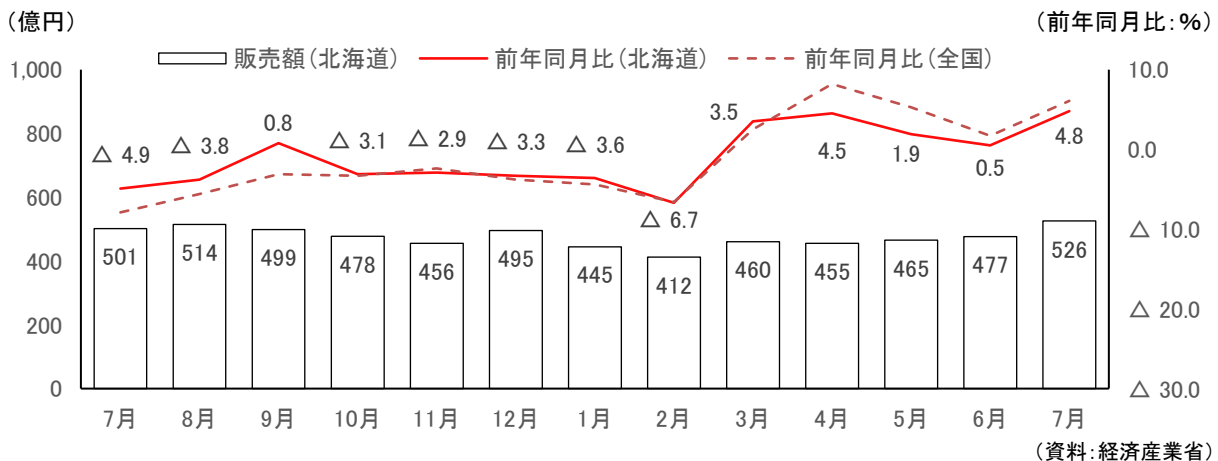
スーパー販売額（7月）

スーパー販売額は、702 億円で前年同月比 1.2%の増加となり、3 か月ぶりに前年を上回った。



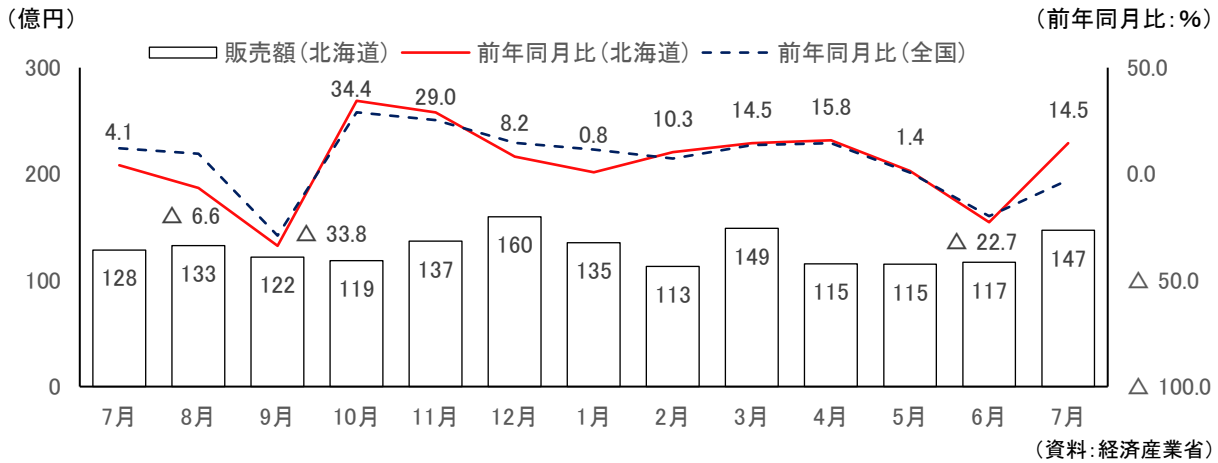
コンビニエンスストア販売額（7月）

コンビニエンスストア販売額は、526 億円で前年同月比 4.8%の増加となり、5 か月連続で前年を上回った。



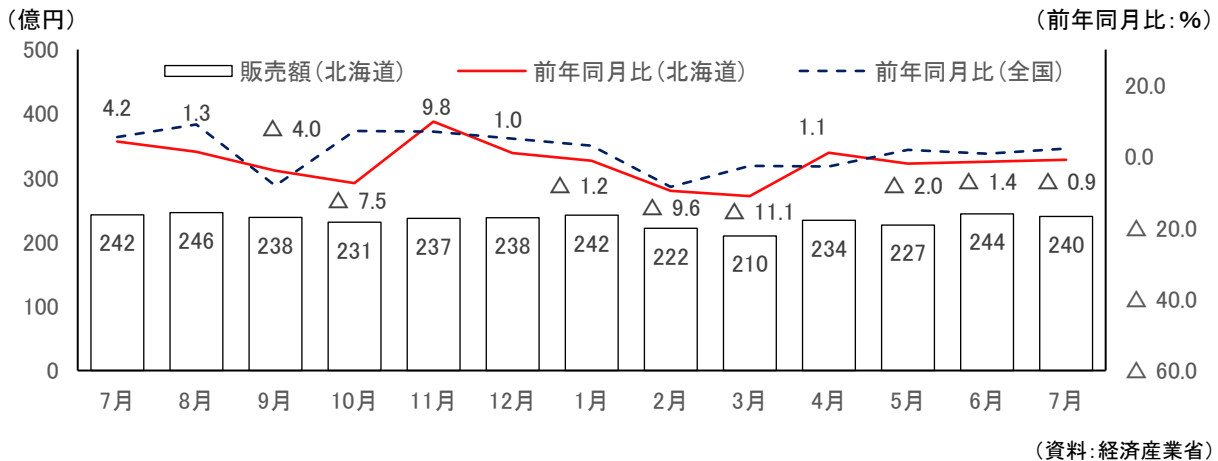
家電大型専門店販売額（7月）

家電大型専門店販売額は、147億円で前年同月比14.5%の増加となり2か月ぶりに前年を上回った。



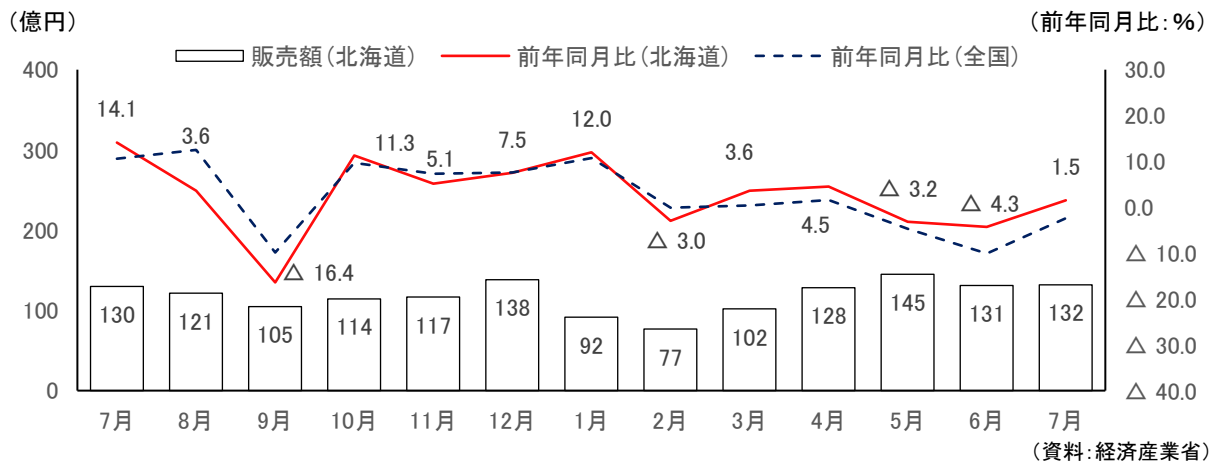
ドラッグストア販売額（7月）

ドラッグストア販売額は、240億円で前年同月比0.9%の減少となり、3か月連続で前年を下回った。



ホームセンター販売額（7月）

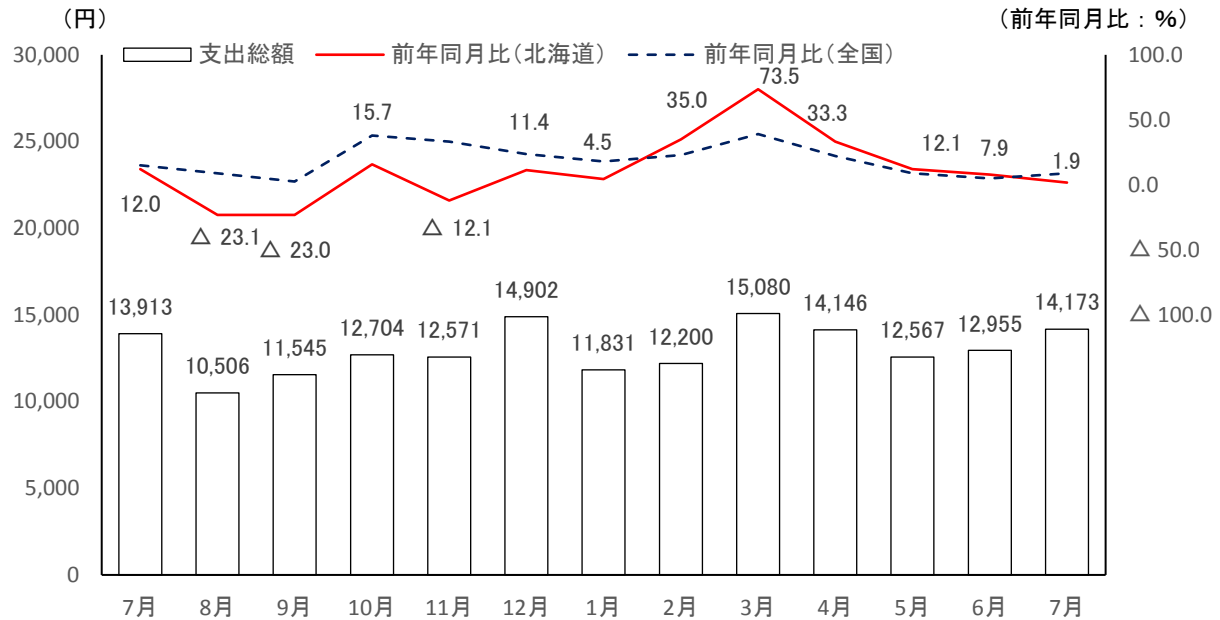
ホームセンター販売額は、132億円で前年同月比1.5%の増加となり、3か月ぶりに前年を上回った。



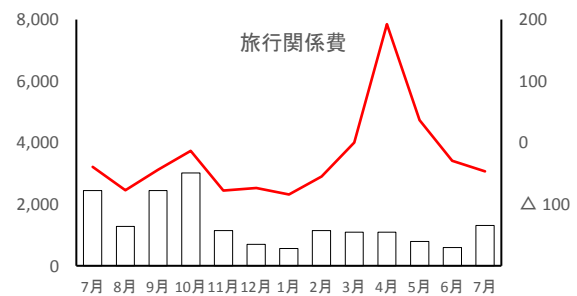
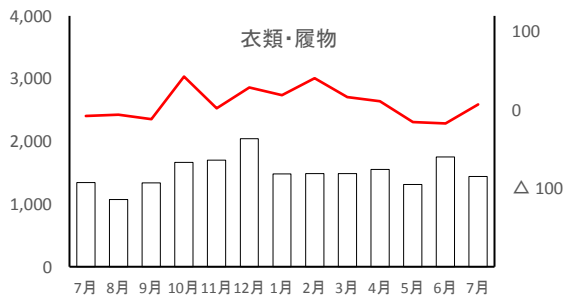
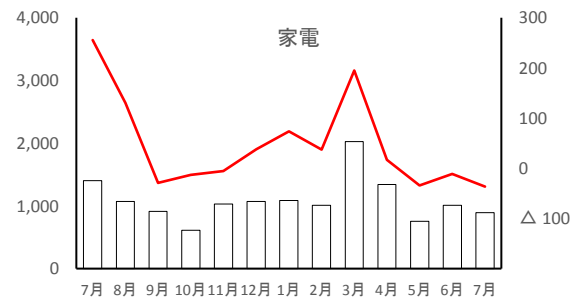
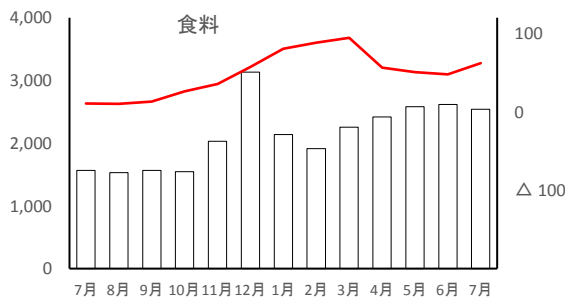
インターネットを利用した1世帯当たり1か月間の支出（7月）

インターネットを利用した1世帯当たり1か月間の支出総額は14,173円で、前年同月比1.9%の増加となり、8か月連続で前年を上回った。

品目別にみると、食料は2,540円で前年同月比62.2%の増加、家電は891円で同36.5%の減少、衣類・履物は1,439円で同7.1%の増加、旅行関係費が1,310円で同46.5%の減少となった。



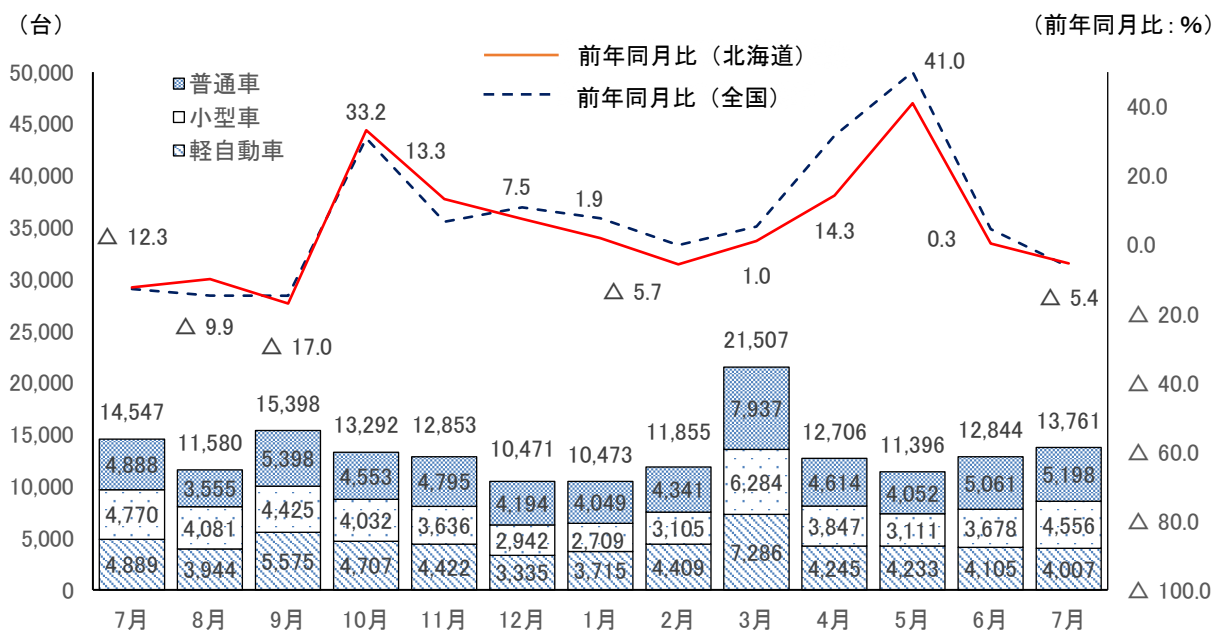
■品目別支出額（右軸：前年同月比%）



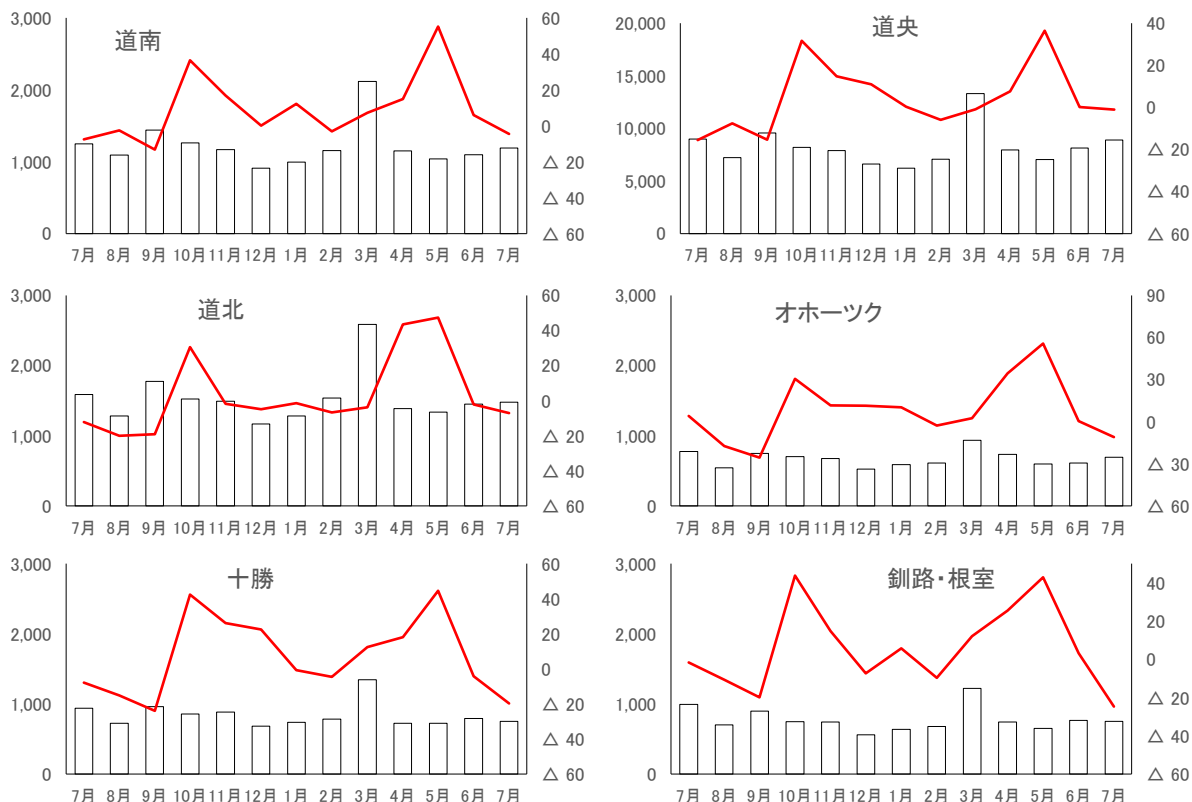
（資料：総務省）

新車登録台数（7月）

新車登録台数は、13,761台で前年同月比5.4%の減少となり、5か月ぶりに前年を下回った。
 車種別にみると、普通車は、5,198台で前年同月比6.3%の増加、小型車は、4,556台で同4.5%の減少、軽自動車は、4,007台で同18.0%の減少となった。



■各圏域の新車登録台数（右軸：前年同月比%）

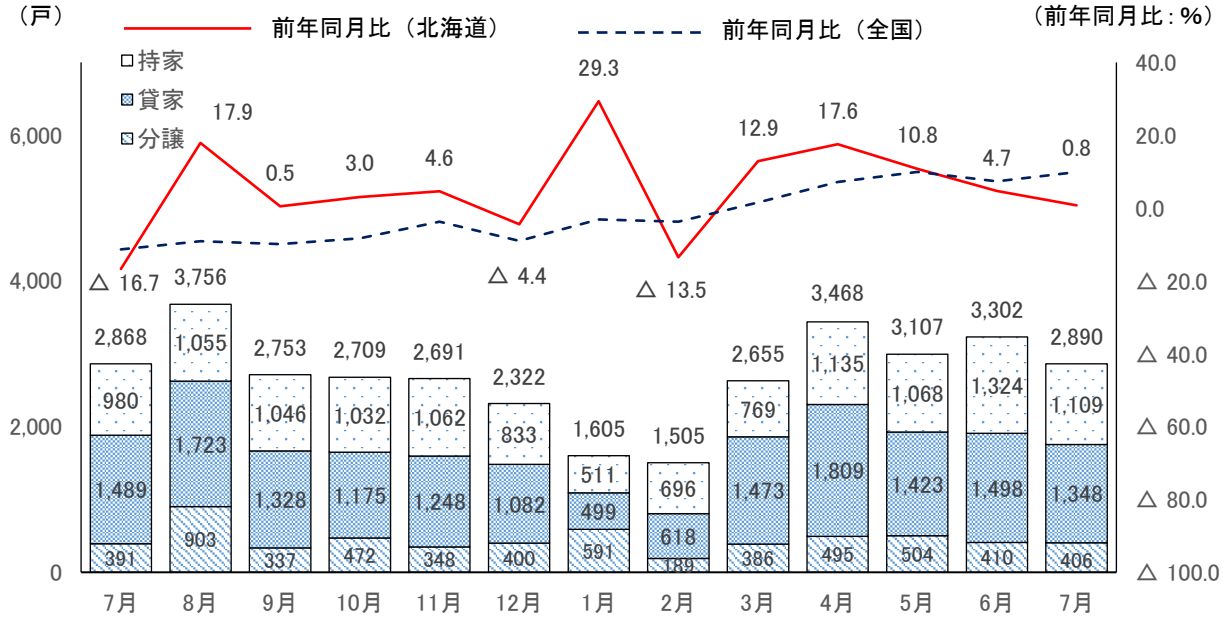


(資料: (一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

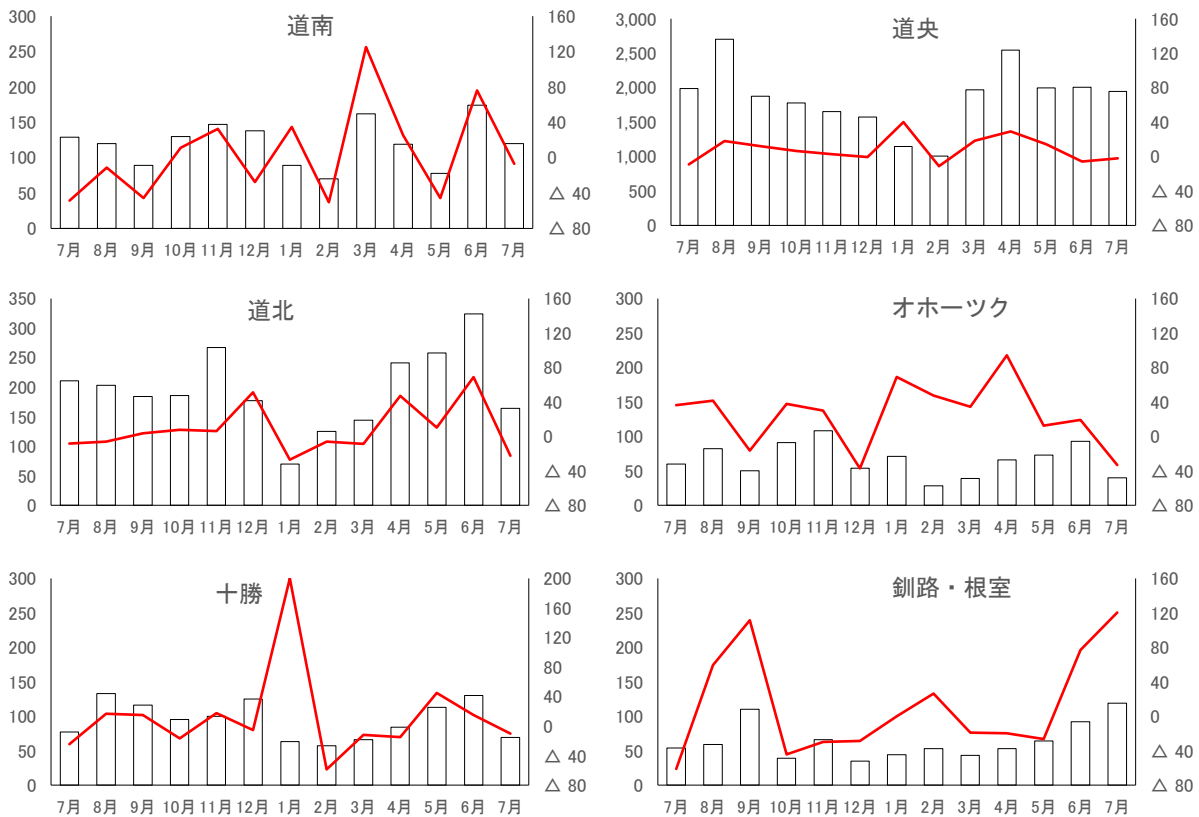
■住宅建設～ 持ち直しの動きに弱さがみられる

新設住宅着工戸数（7月）

住宅着工戸数は、2,890戸で前年同月比0.8%の増加となり、5か月連続で前年を上回った。
 利用関係別にみると、持家は、1,109戸で同13.2%の増加、貸家は、1,348戸で9.5%の減少、分譲住宅は406戸で同3.8%の増加となった。



■各圏域の新設住宅着工戸数（右軸：前年同月比%）

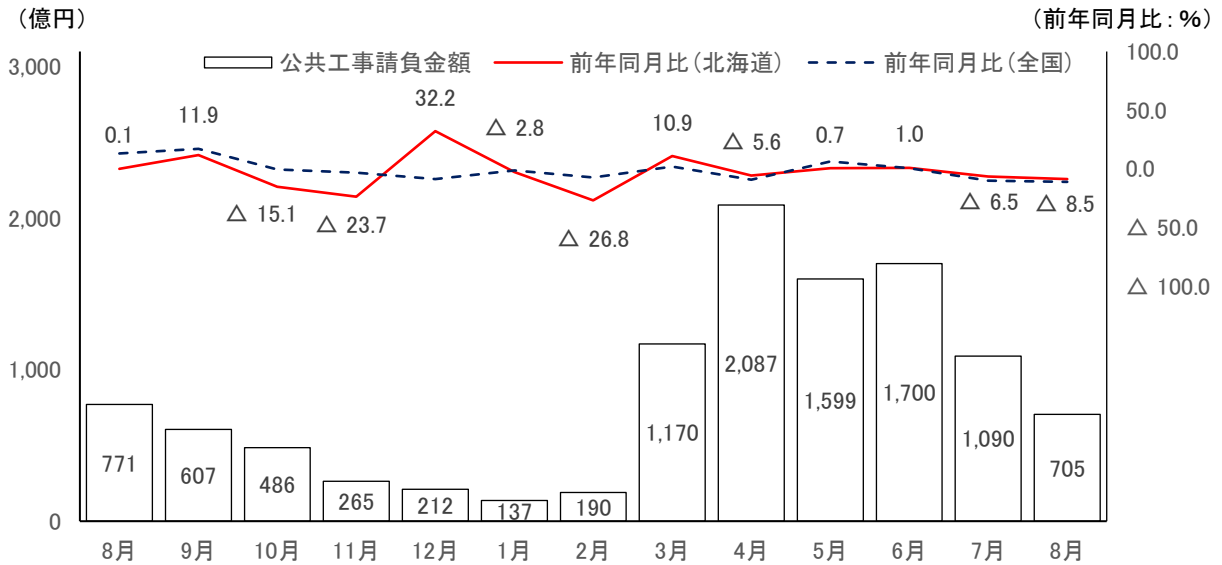


(資料:国土交通省)

公共工事～おおむね横ばいとなっている

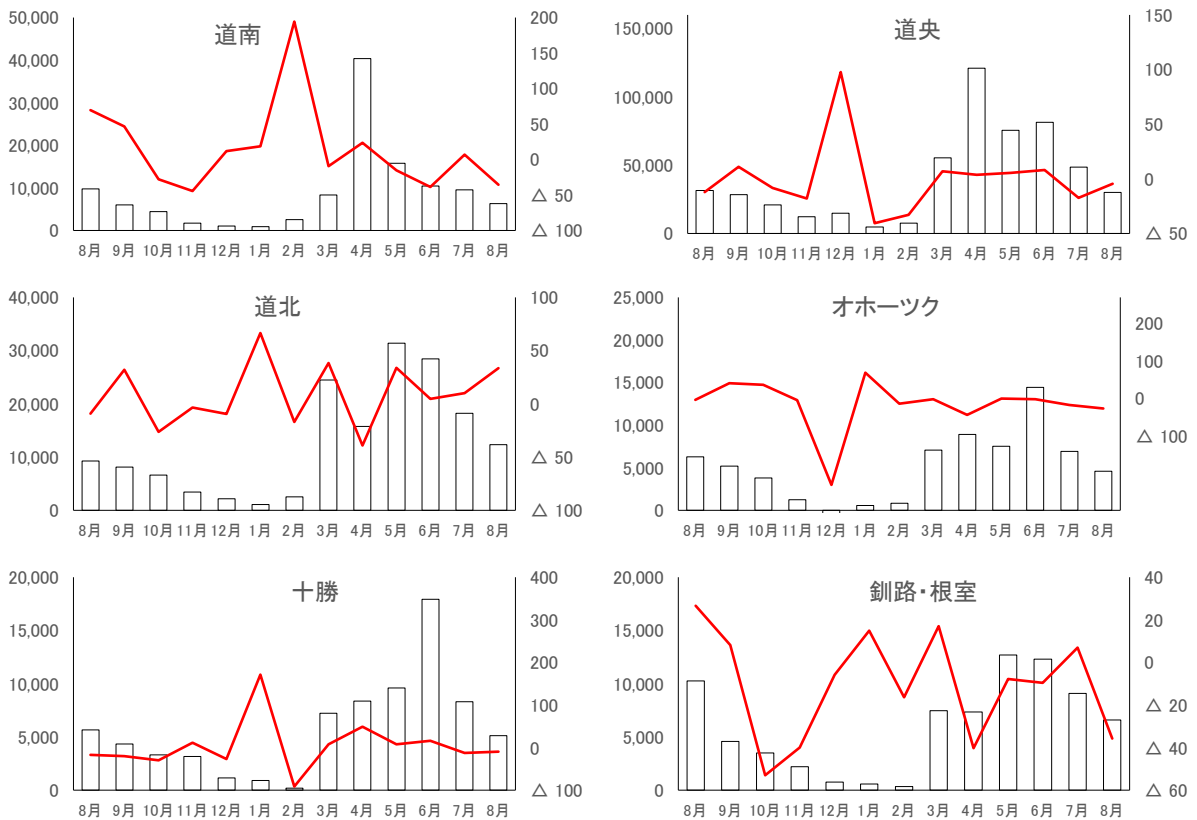
公共工事請負金額（8月）

請負金額は、705 億円で前年同月比 8.5%の減少となり、2 か月連続で前年を下回った。



（資料：北海道建設業信用保証（株））

各圏域の公共工事請負金額（左軸：百万円、右軸：前年同月比%）

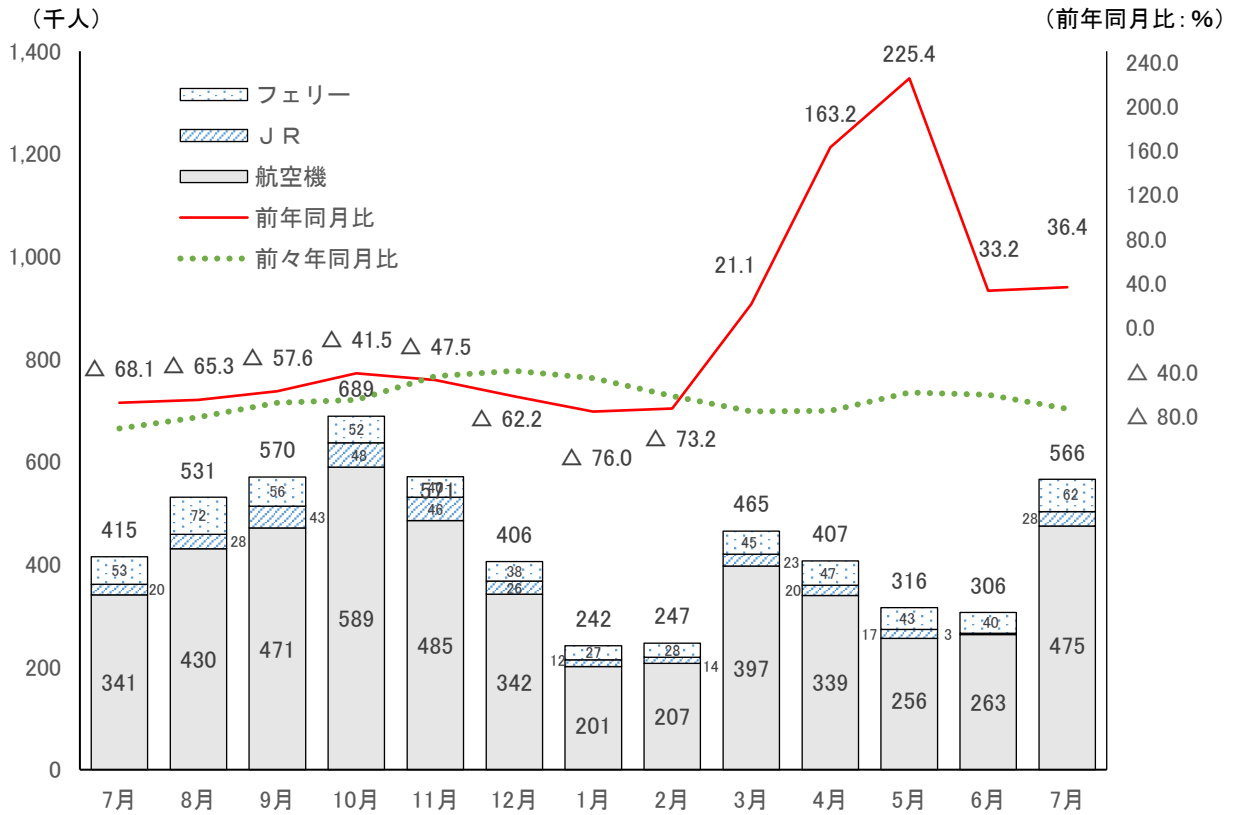


（資料：北海道建設業信用保証（株））

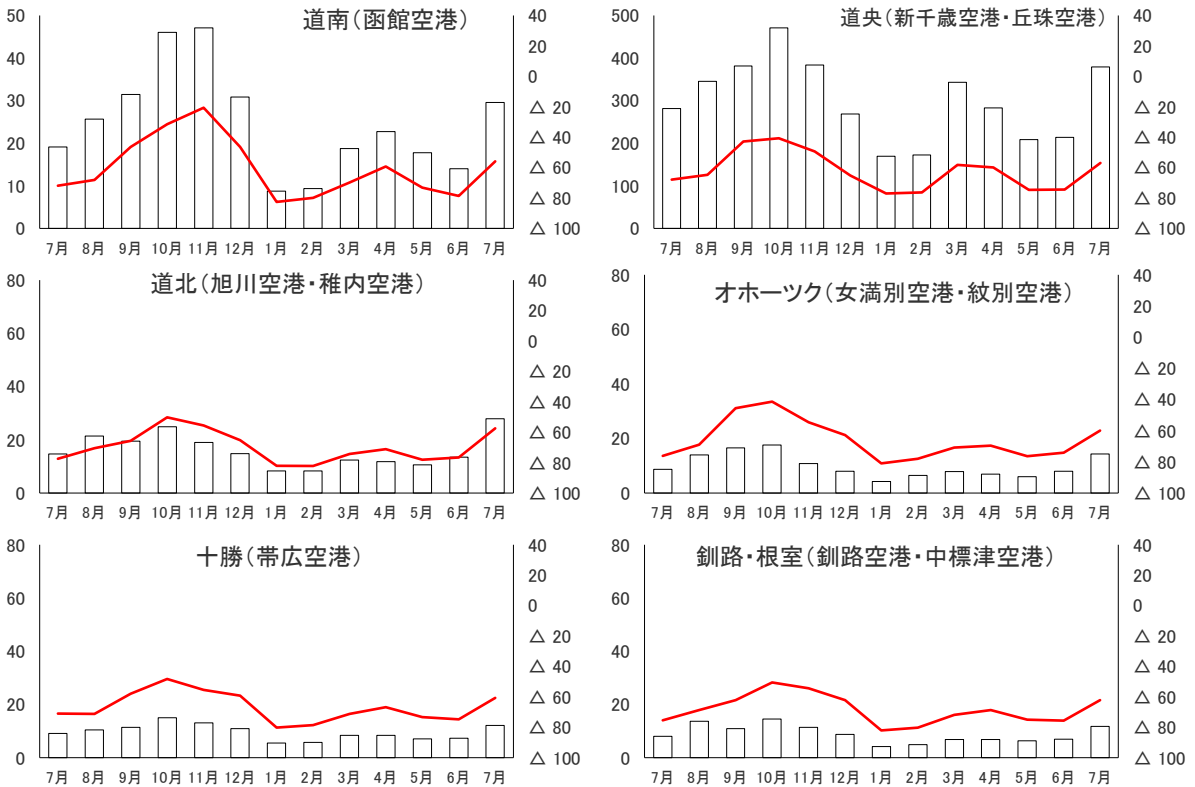
■観光～弱い動きが続いている

来道者数（7月）

来道者数は、56万6千人で前年同月比36.4%の増加となり、5か月連続で前年を上回った。



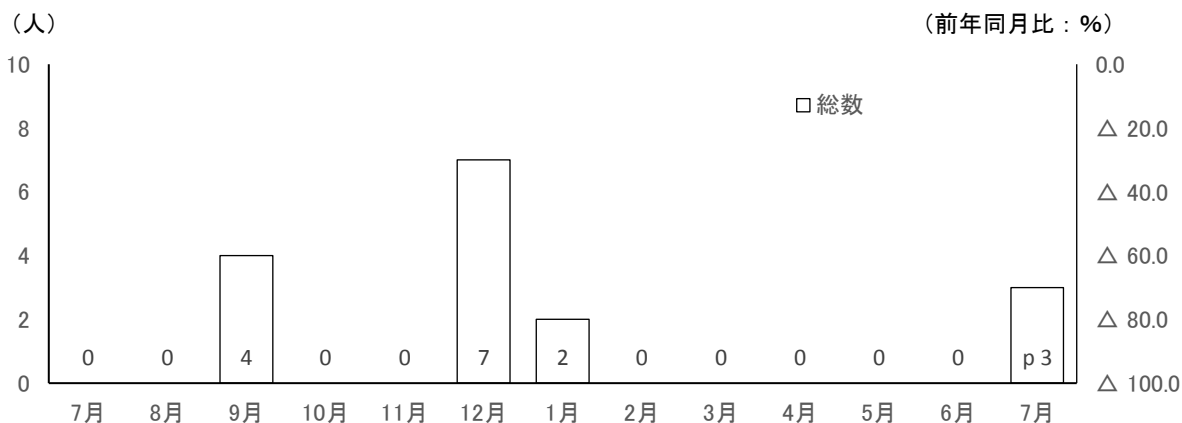
■各圏域の航空機利用による来道者数（左軸：千人、右軸：令和元（2019）年同月比%）



(資料：(公社)北海道観光振興機構)

来道外国人数（7月）

本道に直接入国した外国人は、3人となった。

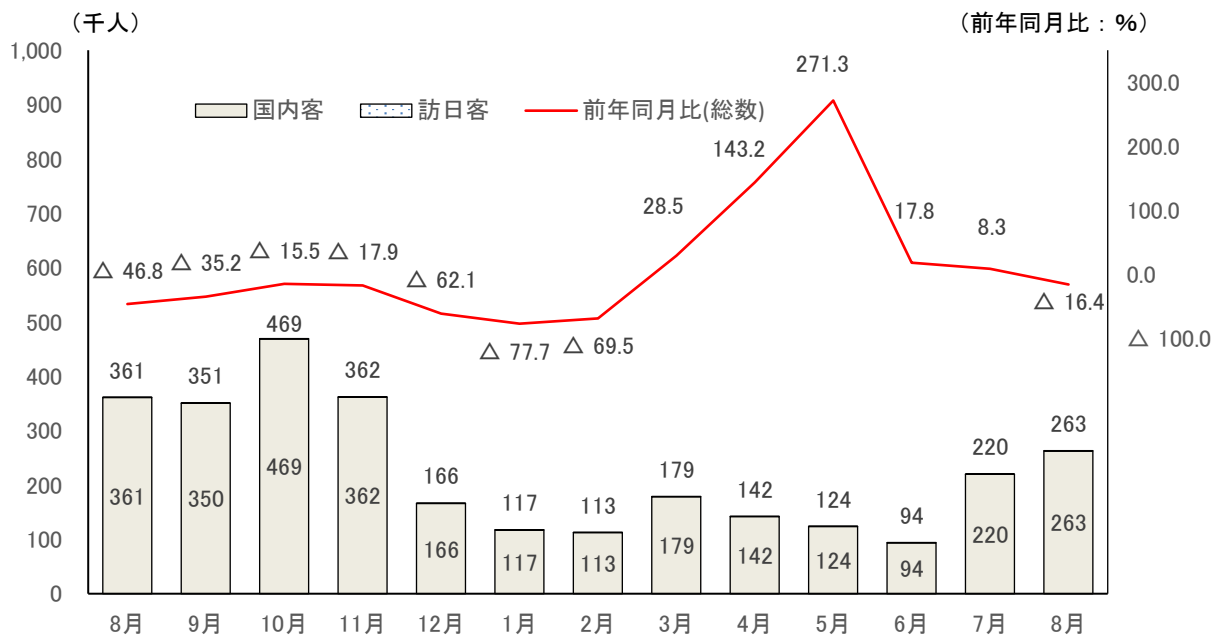


*「p」は速報値 (資料:法務省入国管理局)

宿泊者数（8月）

日本旅館協会加盟施設の宿泊者数は、263,022人で前年同月比16.4%の減少となり、6か月ぶりに前年を下回った。

このうち、国内客は262,817人で同16.3%の減少、訪日客は205人で同63.9%の減少となった。



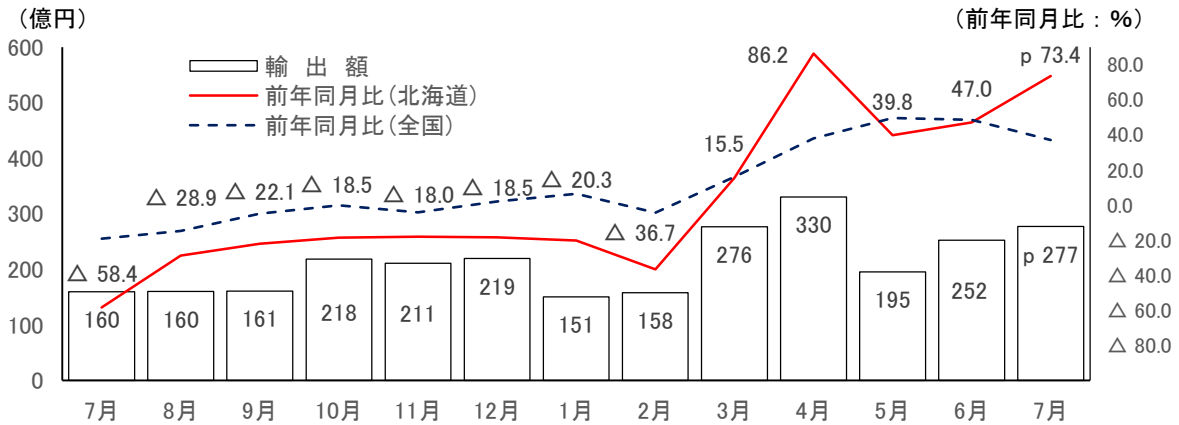
(資料:日本旅館協会北海道支部連合会)

■輸出入～輸出額、輸入額とも前年を上回った

輸出額（7月）

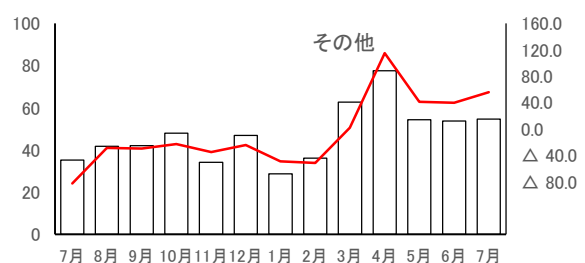
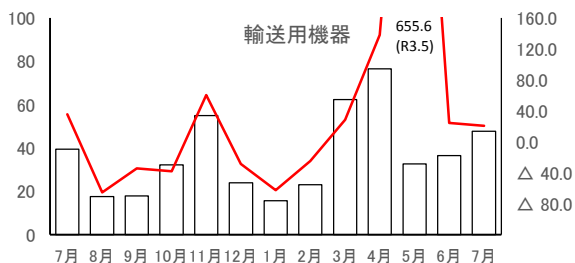
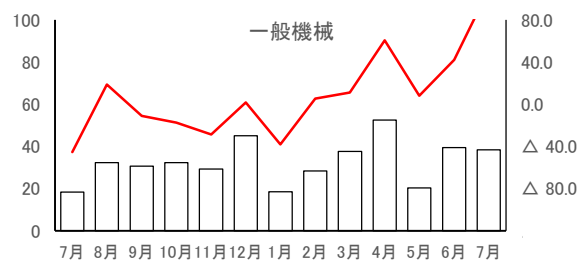
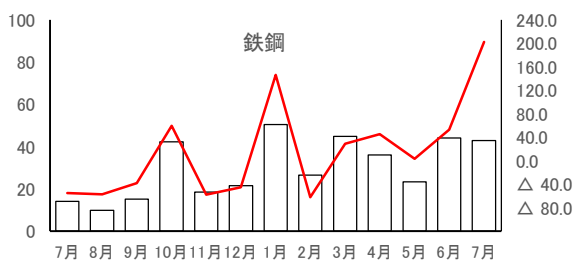
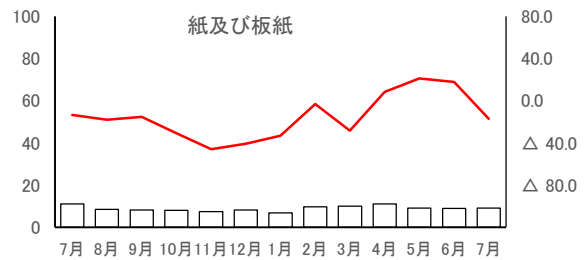
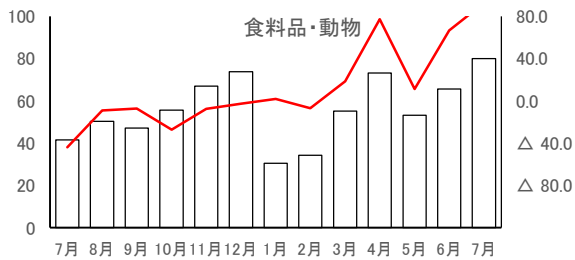
輸出額は、277 億円で前年同月比 73.4%の増加となり、5 か月連続で前年を上回った。

品目別にみると、魚介類・同調製品、自動車の部分品、鉄鋼などが増加し、船舶、石炭・コークス・練炭などが減少した。



*「p」は速報値

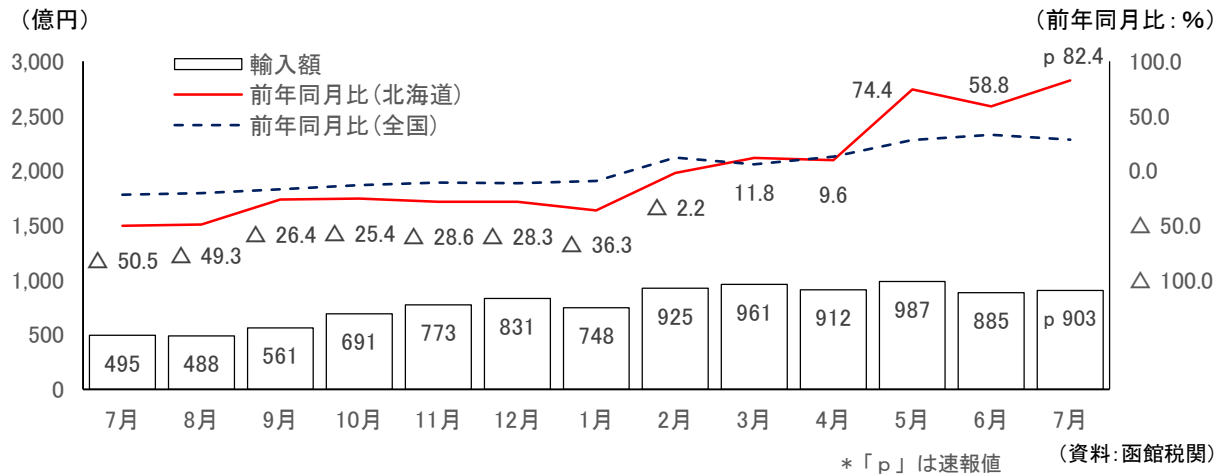
■種類別の輸出額（右軸：前年同月比%）



(資料：函館税関)

輸入額（7月）

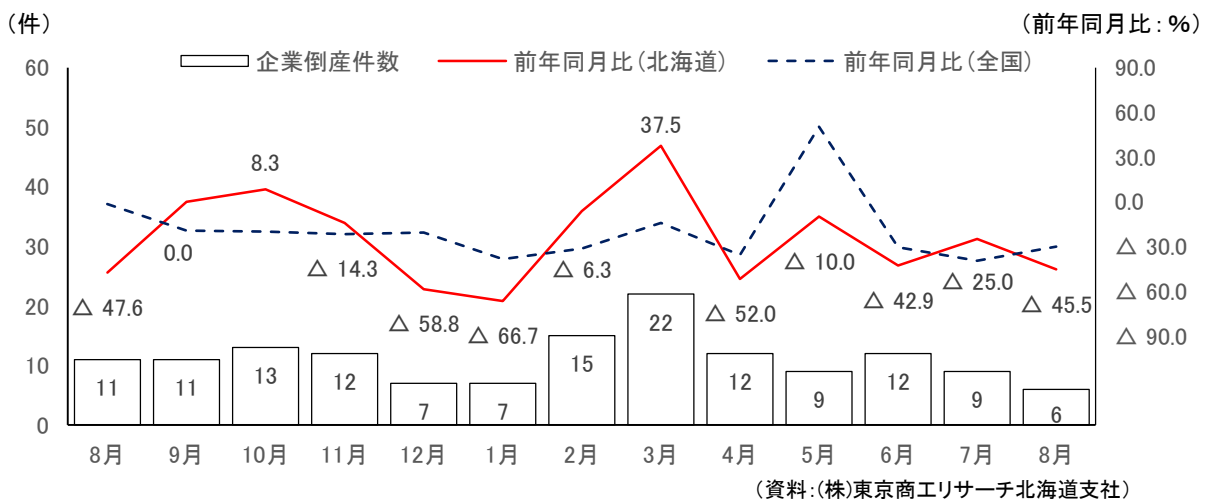
輸入額は、903億円で同82.4%の増加となり、5か月連続で前年を上回った。
品目別にみると、原油・粗油、石炭、一般機械などが増加したが、天然ガス・製造ガス、ウッドチップなどが減少した。



■企業倒産～倒産件数は減少し、負債総額は増加した

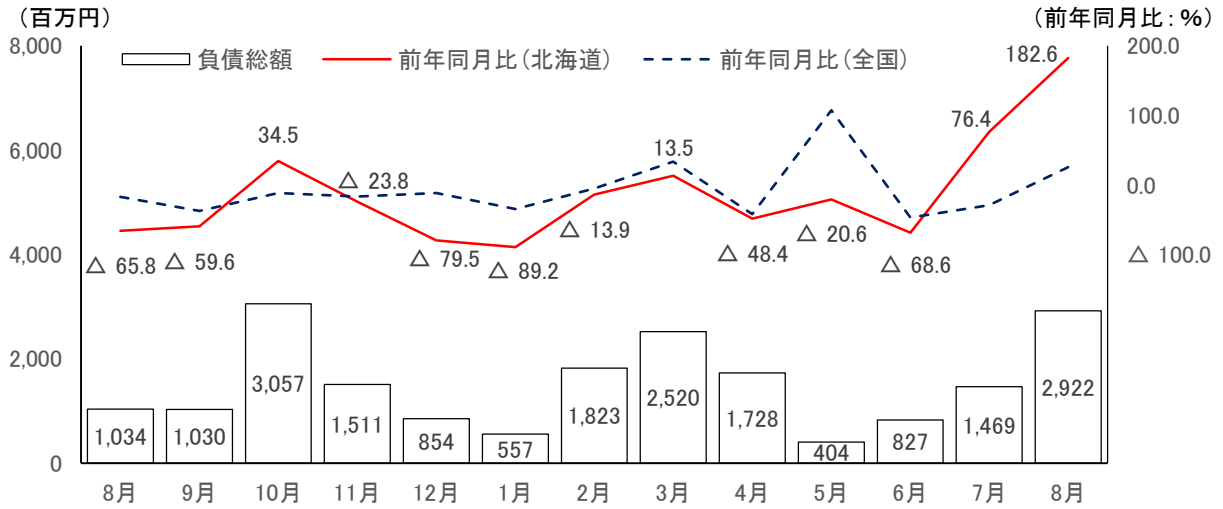
倒産件数（8月）

企業倒産件数は6件、前年同月比で5件の減少となった。
原因別でみると、販売不振が6件(構成比100%)であった。
業種別でみると、製造業が2件(構成比33.3%)、小売業が2件(構成比33.3%)、サービス業が2件(構成比33.3%)であった。

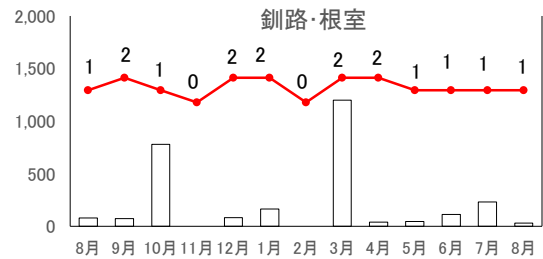
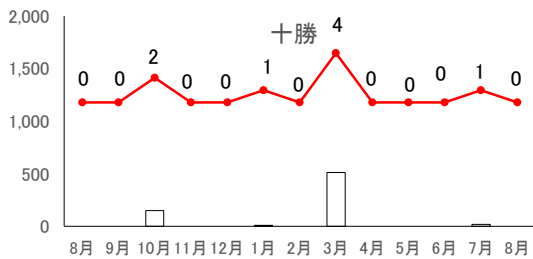
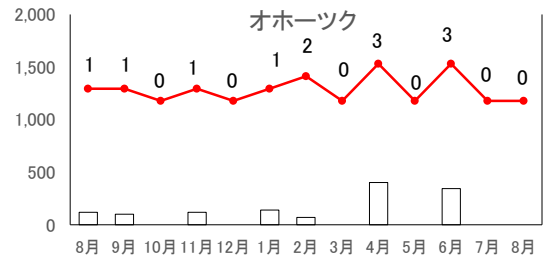
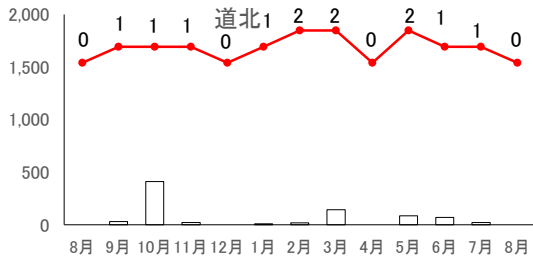
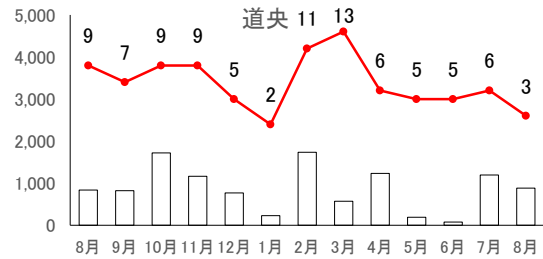
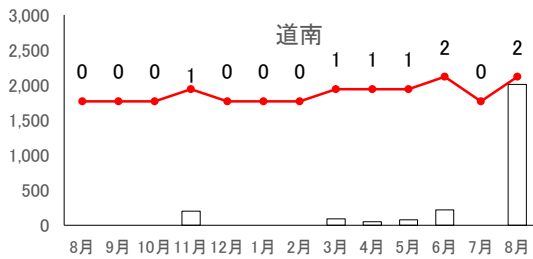


負債総額（8月）

負債総額は、2,922百万円で同182.6%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。



■各圏域の負債総額と倒産件数（折れ線）



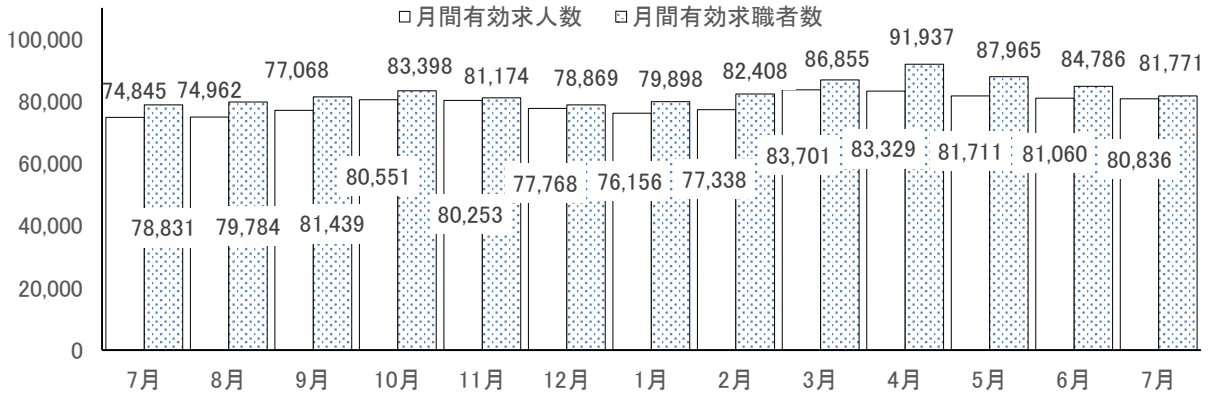
(資料):(株)東京商工リサーチ北海道支社)

■求人・求職～弱い動きが続いている

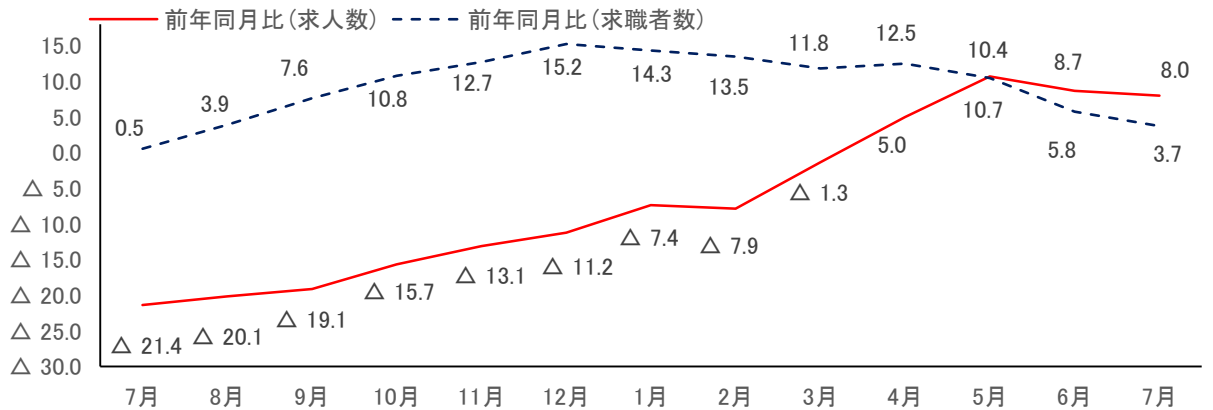
月間有効求人数・求職者数（7月）

月間有効求人数は、8万0,836人で前年同月比8.0%の増加となり、4か月連続で前年を上回った。月間有効求職者数は、8万1,771人で同3.7%の増加となり、13か月連続で前年を上回った。

(人)



(前年同月比：%)



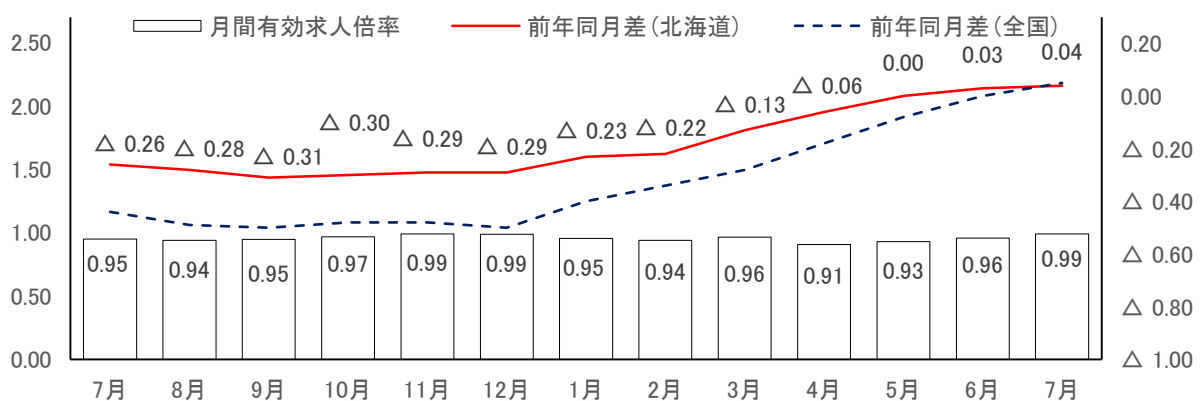
(資料：北海道労働局)

月間有効求人倍率（7月）

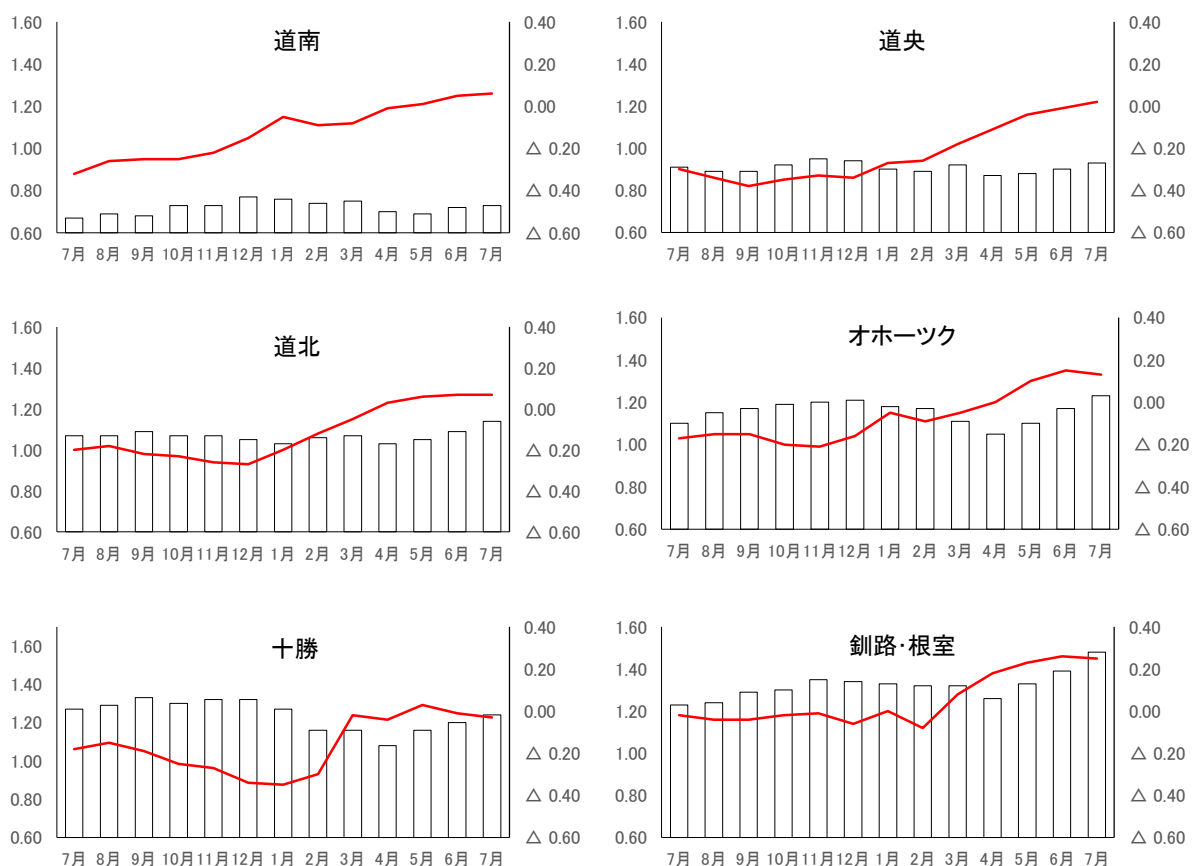
月間有効求人倍率は0.99倍で、前年同月差で0.04ポイントの上昇となり、2か月連続で前年を上回った。

(倍)

(前年同月差：ポイント)



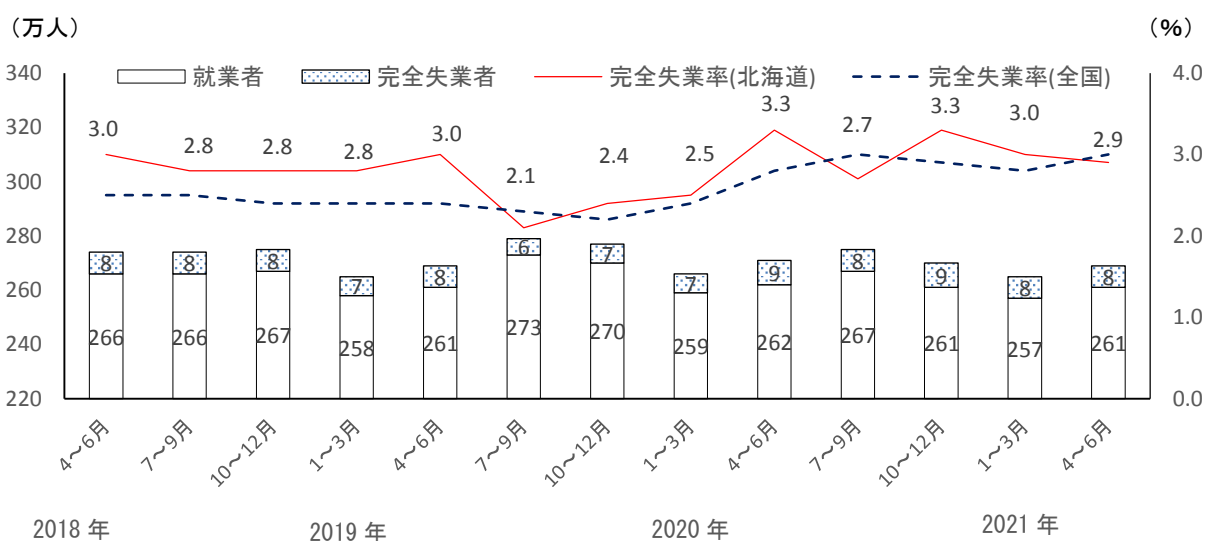
■各圏域の月間有効求人倍率（右軸は前年同月差）



(資料:北海道労働局)

完全失業者数、完全失業率（令和3年4～6月）

完全失業者数は8万人で、前年同期と比べ1万人減少している。
完全失業率は2.9%で、前年同期と比べ0.4ポイント減少となっている。



(資料:総務省)

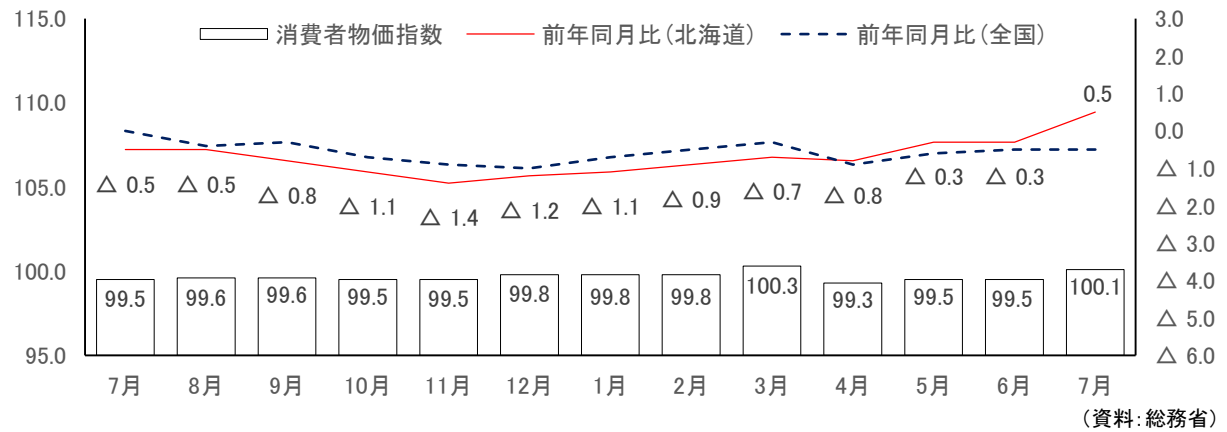
■物価～消費者物価指数は前年を上回った

消費者物価指数（7月）

消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、100.1 で前年同月比 0.5%の増加となり、16 か月ぶりに前年を上回った。

(令和 2 年 (2020 年) =100)

(前年同月比 : %)

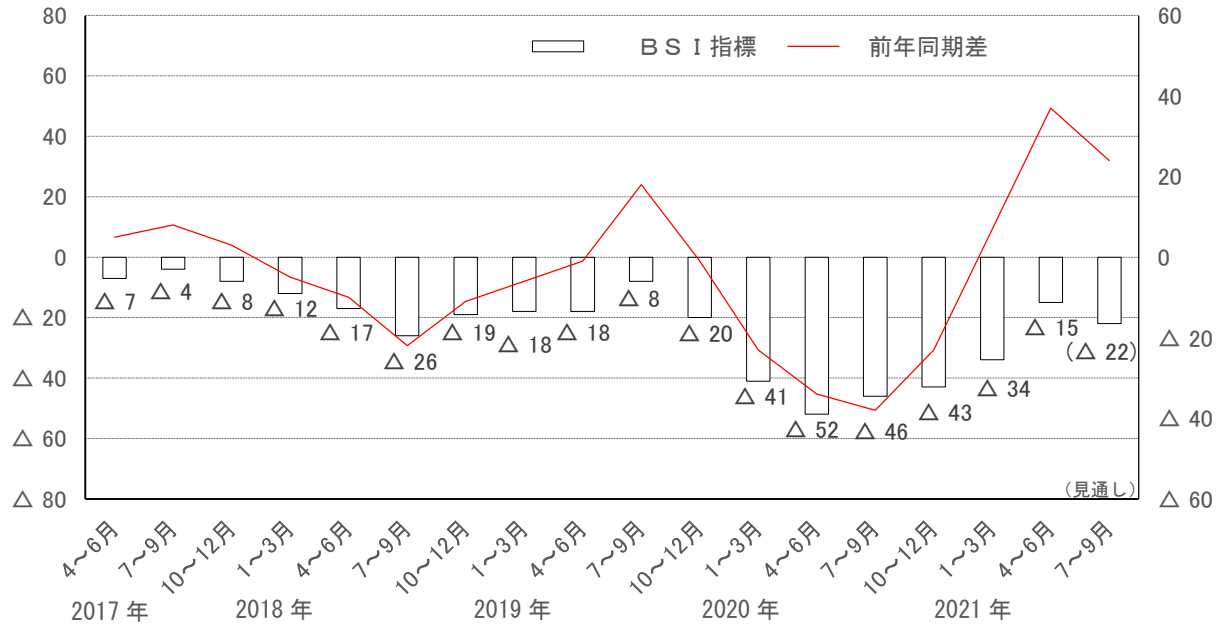


■企業経営者意識調査～前期から上昇している

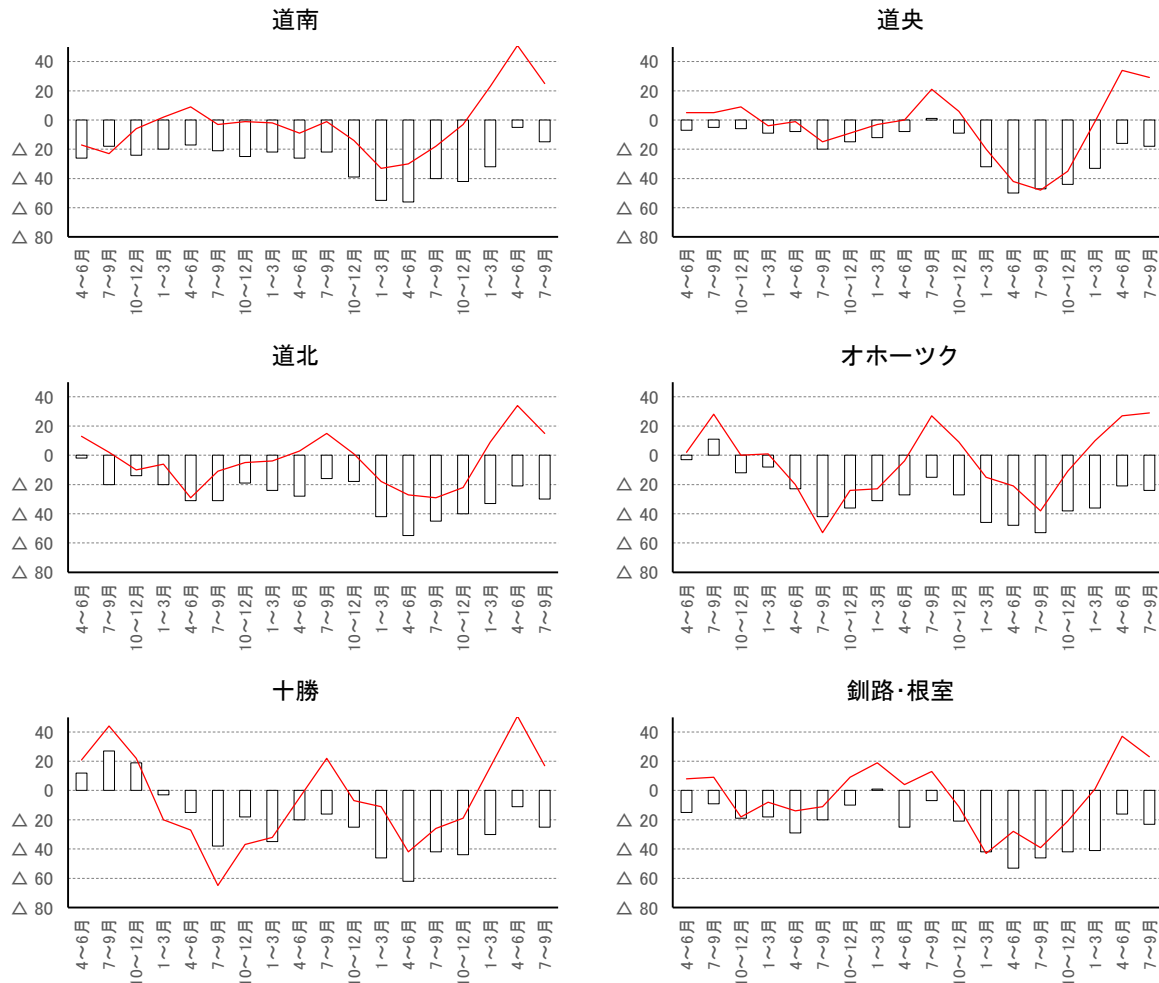
令和3年4～6月期の業況感BSIは△15ポイントで、前期から19ポイント上昇しており、前年同期より37ポイント上昇している。来期見通しは△22ポイントで、今期から7ポイント下落の見通しとなっている。

(BSIポイント)

(前年同期差：ポイント)



■各圏域の業況感BSI（折れ線グラフは前年同期差）



(北海道経済部調べ)

■企業のみなさまから伺いました

◆百貨店（道央地域）

【交通規制などで客数減、販促を控えて催事も振るわず】

8月はオリンピックの交通規制に伴い、駐車場が閉鎖となったことや、密を作らない対策として、地下食品売り場でのセールなども自粛していたため、客数・売上とも減少傾向となった。例年人気のある食品催事も、コロナ禍で販促を控えているため、売上は振るわなかった。またこれまで好調であった高級ブランド品も、人気ブランドの撤退などにより売上減となった。

【新たな雑貨店舗が好調】

9月は現時点においては、客数・売上とも減少傾向であるものの、上位顧客向け催事の設定時期のずれによるものと思われることから、今後回復する見込みである。新たに期間限定で誘致した雑貨店舗が好調であり、今後もこれまで百貨店が取り扱わなかった商品なども積極的に取り入れ、新しい生活様式の顧客ニーズに合わせた方策を検討していきたい。

◆スーパー（道央地域）

8月は、猛暑により昼間の売上は下がり、夕方以降は上がった。東京オリンピックのマラソン競技のあった日の開店～夕方まで、また閉会式が行われた日は20時以降の売上が極端に落ちた。お盆前後、急激に気温が下がったためにアイスなど夏商材がダウンした。

緊急事態宣言発令後も目立った変化はない。

◆コンビニエンスストア（道央地域）

【新型コロナウイルス感染者数の再拡大により家庭内消費が堅調】

8月は新型コロナの新規感染者増加を受け、家族で過ごす時間が増えたことを背景に家庭内で消費する食品類や惣菜、菓子などが堅調だった。一方天候は昨年ほど恵まれず、行楽などは自粛の傾向がみられたため、飲料水やアイスなどの消費は7月と比較すると鈍化した。

最近の経済動向

令和3年9月号

編集・発行 北海道経済部経済企画局経済企画課

TEL 011-204-5139

「最近の経済動向」のデータ集は、北海道のホームページでご覧になれます。

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/ksk/tgs/saikin-doukou.htm>